足立区NPO情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.45
2024年3月15日発行

A-PARTNERS

地域のコミュニケーション

手を取り合って生まれる

特集 地域活動団体と企業の積極的連携
地域のNPOがフォトスタジオで開催する「あだちママサロン」
NPO法人アンドスプーン＋happily photo studio西新井店

トピック
- ○聞きたいあなただけのストーリー　メディカルリズム協会
- ○センターピックアップ　こまくさ歩こう会
- ○頼って！おいでよ！子育ておまかせ処　あだちファミリースペースevery tree / NPOヨリミチライフあだちほっとタイムプロジェクト
- ○コラム　スタッフのつぶやき

編集・発行　2024年3月15日　足立区NPO活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田7-13-1（梅田図書館1F）TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄：足立区協働・協創推進課　協働・協創推進担当 TEL:03-3880-5020
足立区

子どもの居場所　子育て支援　安心して暮らせる環境や仕組みづくり

頼って！おいでよ！子育ておまかせ処

あだちファミリースペース every tree

主な活動場所：足立区梅田 6-3-10 1-A
お問い合わせ：hisae_every@icloud.com

はなして、やすんで、つながろう！

活動内容

「不登校の子の居場所！そしてみんなの交流場所！」を運営し、育児相談や子ども相談、ママやシニア向けイベントなどを開催中です！ 子どもたちが色々な人と出会い楽しく過ごせるように、交流の場を作っています。

メッセージ

誰かと話すと心が軽くなることがあります！大人も子どもも、ちょっと休憩してホッと安心できるように、相談や託児つきイベント、スマホサポートなど気軽にご利用ください！子育てをシェアしてみんなが笑顔へ！

NPOヨリミチライフ あだちほっとタイムプロジェクト

主な活動場所：足立区全域
お問い合わせ：sswjp30@gmail.com

銭湯でママのリラックスをお手伝い

活動内容

たまにはゆっくり湯船につかりたい！そんなママの願いに応えるべく、託児、見守りサポート付きの入浴会を足立区内の銭湯で開催しています。銭湯文化に親しんでもらえるような講座や交流会なども行っていく予定です。

メッセージ

「あだちで親子銭湯」と題し、小さな子どもがいるご家族にも、お風呂を楽しんでもらえるような入浴会を開催！ 保育スタッフが入浴前後でお子様をお預かりし、着脱などをお手伝い。急に泣き出してしまっても大丈夫ですよ！

「くわしく聞きたい！」
「自分も何か始めたい！」
と思ったら・・・

地域にどんな活動があるのかな？
私にも何かできるかな？
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
足立区NPO活動支援センターに
アクセスしましょう。

あだち協働パートナーサイト　X(旧Twitter)　Facebook

〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp

スタッフのつぶやき

日々生活する中で不安や疑問を感じることがあるかもしれません。その際は、せわしなく過ぎ去る時間の中で、一度立ち止まり、今の自分自身の状況や、自らの暮らしを社会の全体構造の中に置き直して振り返ってみます（これを教育学で“省察”と呼びます）。

個人が何気なく抱える問題を他者と共有することで、実は共通の地域の課題＝社会的な課題であることに人々は気づきを得ます。

そして課題の解決に向けて互いに学び合います。

いかなる地域を共に構築していくか、目の前にある課題解決に向けて試行錯誤しながらも実践を積み重ねる…このような一連のプロセスが地域活動・NPO活動へとつながっていくのだと感じています。

（センター長・橋爪）

***** 足立区NPO活動支援センター開館日・開館時間 *****

開 館 日：（火）～（日）
開館時間：午前９時～午後９時３０分（月末の平日は午後５時まで）
休 館 日：（月）、（祝）、年末年始

【制作】イラスト：やわらかアートアカデミー　スズキミ／表紙撮影協力：happily photo studio 西新井店／表紙撮影：上村忠彦（ハピリィ）／表紙モデル：赤須彩子・海斗／記事作成：秋本創

特集 地域活動団体と企業の積極的連携

協働・協創は団体同士に限らず、団体と企業の間でも行われます。今回は地域で展開するフォトスタジオで開催されたママサロンにスポットを当て、NPO法人アンドスプーンの長汐千春さんと happily photo studio 西新井店の河村摩耶さんにお話を伺いました。

地域のNPOがフォトスタジオで開催する「あだちママサロン」

NPO法人アンドスプーン＋happily photo studio 西新井店

ママサロンでは親子で楽しめるワークショップや講座などが行われる。

駅前のフォトスタジオで開催された「あだちママサロン」

NPO法人アンドスプーン（以下、アンドスプーン）は、地域の未就園児親子向けに絵本の読み聞かせなどを行う「あだちママサロン」を開催しています。このイベントに会場を提供しているのは「happily photo studio西新井店」。会場提供だけでなく、希望した親子にはスタジオに所属するプロのカメラマンが無償で写真撮影を行うサービスも提供しています。

アンドスプーンは女性や子育て世代を支援することを目的に活動するNPO法人で、親子向けのイベントや居場所づくり、スキルを持つ女性の講師登録制度などの事業を展開。今年は、足立区の「公益活動げんき応援事業助成金」の助成を受けて、「あだちママサロン」を開催し、地域のママたちに居場所とつながりを提供しています。

「happily photo studio西新井店」は株式会社ハピリィの運営するフォトスタジオで、関東を中心に19店舗のフォトスタジオを展開しています。

ママサロンをフォトスタジオで行うことになったきっかけ

「あだちママサロン」をフォトスタジオで開催することになったきっかけは、同スタジオの河村摩耶さんがインターネットでアンドスプーンを知り、連絡をとったことでした。ハピリィは西新井店以外でも地域の団体と積極的に連携しており、会場提供だけではなく、一緒にイベントを開催することもあります。西新井店でもそのような協働先を探している中でアンドスプーンの情報に出会いました。

アンドスプーンも自分たちの活動を広げるために企業との連携を積極的に進めています。Webサイトを頻繁に更新して検索上位に表示されるようにするなど、企業や協働先の目に留まりやすくする工夫を行っており、問い合わせも頻繁に来ると言います。

アンドスプーン代表の長汐千春さんは、ママや子どもたちなどを支援するためには「まずはたくさんの新しいママと出会うことが大切」と語っています。そのために企業や他の団体と連携して大規模なイベントを開催し、多くの人に参加してもらうことを目指しています。

ハピリィから連絡を受けた長汐さんは同社の代表やフォトスタジオの担当者と話し合いの場を設け、「見ている方向性が同じ」と感じて連携が始まりました。

NPOと企業が協働するうえで大切なこと

長汐さんはかつて足立区内で大規模なイベントの運営に携わっており、営業力と企画力を兼ね備えています。これにより企業からの要望にも柔軟に応えることができることがアンドスプーンの強みです。「自分たちの主張をするだけでなく、企業が自分たちに何を求めているかを考えることが大切です」と話す長汐さん。その考えや経験をもとにたくさんの企業や団体と協働イベントなどを開催していますが、そんな長汐さんから見ても無理な成果を求めないハピリィとは相性がいいと言います。

ハピリィは今までもイベントやワークショップの開催にあたり、ノルマを設けることはありませんでした。目標はあくまで多くの人に知ってもらうこと、多くの人とつながりをもつということで、利用する団体とも参加費や売り上げの話をすることはありません。

イベントを一緒に運営することで得るものもあります。「地元の人と触れ合うことで地域性も分かります。この場でたくさんの人とコミュニケーションをとっていることが私たちに大きなプラスになっています」と河村さんは話します。

地域での協働が生み出す新展開

現在、ハピリィがイベントで知り合ったママに無料で着付けやヘアメイクに関する技術のレクチャーを行い、フォトスタジオの繁忙期には短期アルバイトをしてもらうことを計画しています。

この展開が実現すれば、アンドスプーンはママのスキルアップと就労につなげることができ、ハピリィにとっては貴重な人材確保の場にもなっていきます。ひとつのイベントをきっかけに始まったNPOと企業の協働ですが、今後はさらにお互いにとって大きなメリットのある新しい展開が期待されます。

この日はハンドマッサージの講座が行われた。

新規登録団体紹介 聞きたい、あなただけのストーリー

リズムでつながるドラムサークル メディカルリズム協会

メディカルリズム協会は、みんなで輪になって太鼓をたたき、コミュニケーション形成を行う活動＝「ドラムサークル」の普及・実施を行なっている団体です。リズムの不思議が医療・福祉・教育に役立つことを夢見てこの団体名をつけました。ドラムサークルを行うだけではなく、実践していく人材育成も行い、ドラムサークルの効果と可能性を社会に発信しています。10名の会員で始めた活動も現在はサポート会員を含めて45名に広がりました。

現在の活動は、国や財団の助成事業としての実施や、保育園・幼稚園・放課後デイサービスなどから依頼を受けて行っています。さらにファシリテーター育成のための勉強会も開催しています。

「ドラムサークルはまだまだ認知度が低く、その魅力を言葉で伝えるのは難しい」と話すのは団体の代表である若林竜丞さん。その半面、学校で教員から「普段見ることのできない子どもたちの表情を見ることができました」という言葉をもらうととても嬉しく感じると言います。

ドラムサークルへの参加に演奏経験は必要ありません。あらゆる年齢層の方々が一緒に楽しめるのも魅力のひとつ。そして楽しいだけでなくコミュニケーション形成にも大変役に立ちます。イベント会場では初対面の人たち同士が「以前から知り合いだったような気がします」といった感想を口にすることもあります。

「みんなで輪になって太鼓をたたく。それだけなのになぜかとても楽しいのがドラムサークルです。どこかで『ドラムサークル』の文字を見かけたらお気軽にご参加ください」と若林さんは語ってくれました。

子どもからも参加できるのが魅力のひとつ

注目の活動 センターピックマップ

楽しくみんなで健康づくり こまくさ歩こう会

こまくさ歩こう会は、健康維持のためにハイキングやウォーキングを実施している団体です。会員はシニア層を中心に100名おり、そのうち3分の2が女性。毎月2回、日曜日に東京・青梅周辺や関東周辺の山々などで行われるハイキングやウォーキングには毎回20～30名が参加します。

会の名前の由来は高山植物の女王と呼ばれている「こまくさ」で、いつまでも健康で歩けるようにとの思いがあります。参加した会員からは「次回のイベントが楽しみです」「多くの仲間ができました」という言葉が寄せられるなど、楽しみながら健康づくりを行っています。

参加者の皆さんの眩しい笑顔